

H28年度 海溝型地震部会（プログラム 2.21 版）

2017年2月27日（月）9:55-18:00 地震研究所1号館2階セミナー室

連絡担当者：西村卓也（京大防災研）、小原一成（東大地震研）

時間	報告者	課題名
9:55-10:00	西村 卓也	趣旨説明
10:00-10:15	望月 公廣	日・米・NZ 国際協力によるスロースリップでのプレート境界面断層滑りメカニズムの解明
10:15-10:30	蔵下 英司	プレート境界すべり現象モニタリングに基づくプレート間カップリングの解明
10:30-10:45	谷岡 勇市郎	北海道沖低頻度大規模地震の総合的理解とそのモニタリングへの基礎的研究
10:45-11:00	東 龍介	スラブ内地震の発生メカニズムの解明
11:00-11:15	篠原 雅尚	日本海溝・相模トラフプレート境界で起こる多様なすべり現象の包括的モデル構築
11:15-11:30	山岡 耕春	南海トラフ域における巨大地震断層域の力学・変形特性の把握
11:30-11:45	澁谷 拓郎	南海トラフ巨大地震の予測高度化を目指したフィリピン海スラブ周辺域の構造研究
11:45-12:00	小平 秀一	海域地震発生帯研究開発

昼食

13:00-13:15	知北 和久	北海道太平洋岸の潟湖周辺の多点掘削に基づく巨大津波による砂州形成過程の理解
13:15-13:30	渡邊 剛*	サンゴからなる津波石の骨格調査に基づく沖縄周辺の津波履歴の解明
13:30-13:45	伊尾木圭衣	日本海沿岸域における過去最大級津波の復元
13:45-14:00	宍倉 正展	海溝型巨大地震の履歴とメカニズム解明
14:00-14:15	八木原 寛	海域と島嶼域における地震・地殻変動観測による南西諸島北部のプレート境界域テクトニクスの観測研究
14:15-14:30	中村 浩二	自己浮上式海底地震計観測による宮城県沖の地震活動

14:30-14:45	五十嵐 俊博	相似地震再来特性の理解に基づく地殻活動モニタリング手法の構築
14:45-15:00	朴 進午	津波地震を励起する浅部プレート境界断層の実態解明と物性変動モニタリング
15:00-15:15	山田 泰広	先端的掘削技術を活用した総合海洋掘削科学の推進
休憩 15 分		
15:30-15:45	酒井 慎一*	首都圏に被害を及ぼす地震の解明およびその被害の実像
15:45-15:55	山下 太	巨大地震による潜在的ハザードの把握に関する研究
15:55-16:10	中谷 正生	次世代プレート境界地震発生モデル構築のための実験的・理論的研究
16:10-16:20	松澤 孝紀	基盤地震観測等データのモニタリングによる地殻活動の理解と予測技術の開発
16:20-16:35	平原 和朗	地震サイクルシミュレーションの高度化
16:35-16:50	福田 淳一	実観測データに基づく断層面の摩擦パラメータと地殻活動の状態推定のためのデータ同化手法の構築
16:50-17:05	矢来 博司	プレート境界面上の滑りと固着の時空間変化の広域的な把握
17:05-17:20	横田 裕輔	海底地殻変動観測+海洋測地の推進
17:20-17:35	塩原 肇	海底での地震・地殻変動観測に向けた観測技術の高度化
17:35-17:50	東 龍介	海溝軸近傍で観測可能な海底地殻変動観測技術の開発
17:50-18:00	西村 卓也	短スパン伸縮計等を活用した西南日本における短期的SSEの観測解析手法の高度化

*は、副部長による代理報告を予定。